

岐阜県立大垣北高等学校

校長 増田俊彦
学校住所 大垣市中川町4丁目110番地の1 電話 0584-81-2244

- 1 会議の名称 岐阜県立大垣北高等学校評議員会（第2回）
- 2 会議の構成 委員 石丸徳之 大垣市中川ふれあいセンター所長
川瀬敦子 主婦（地域住民）
清水義弘 （株）イビコン代表取締役
田村弘司 同窓会代表
林綾子 保護者代表（PTA代表）
(委員名は五十音順)
学校側 古川陽一 育友会長
増田俊彦 校長
吉田健太郎 事務部長
竹中和春 教頭
桐山明宏 教務部長
高橋範行 進路支援部長
早矢仕賢治 生活充実部長
- 3 会議の目的 学校運営や教育活動について地域社会に情報発信するとともに、要望や意見を幅広く聞き、より一層地域社会に開かれた学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成31年1月16日(水) 14:00～15:50 大垣北高等学校(小会議室)
12名全員出席
- 5 会議の概要 (1)開会 校長挨拶(14:00～14:05)
(2)校則について
(3)生徒及び保護者アンケート結果
(4)本校の自己評価について
(5)学校評議員(意見・要望・評価等)
(6)閉会 校長挨拶(15:45～15:50)

テーマ 本校の教育活動に対するご意見等

【校則について】

- 意見 1 女子の制服で開襟シャツの使用はよいか。
(回答) 冬の服装(上着着用時)以外の場合は開襟シャツでも良い。
- 意見 2 制服の自由化については議論されたことがあるか。
(回答) 以前生徒会中心にアンケートの実施をしたことがあった。その時は制服を支持する意見が多くを占めた。最近では、そのような意見は聞いていない。

意見 3 靴下の色やタイツの厚さの指定についてはどうか。
(回答) 指定しているがワンポイント程度は許可している。タイツについては防寒をメインにらえての指導である。

意見 4 服装・頭髪等については、いろいろな議論がされるところではあるが本校の生徒としての良いプライドを大切にできる生徒の育成に努めてほしい。校則は細かくすればするほど実態にそぐわないものになる。学校教育全般を通して本校生徒としてどのような服装をするべきなのかを正しく考えることができる生徒の育成を目指してほしい。

【アンケート結果について】

意見 5 教員の授業については肯定的な意見が多いのに対して習熟度別授業や少人数授業が学習理解につながっているという項目で否定的意見が多い。このことはどのように分析するか。

(回答) アンケートの項目は県全体の統一した項目である。本校では習熟度別授業は展開しておらず、本校に合致しない項目であった。わからないと回答した生徒も多く本校の状況をよく理解して回答しているととらえることもできる。

意見 6 先生方の日頃のご苦勞が良く伝わってくる結果であると感じます。先生方に一声かけていただいただけで元気になる子供の姿を見ていると先生方への感謝の念で一杯である。

意見 7 特に夏場の教室環境についてお聞きします。冷房使用の際冷気を苦手とする生徒に対する配慮はどのようにされているか。

(回答) ひざ掛けや上着の着用について許可しています。また、冷房運転する際には局所冷房にならないように配慮しています。

意見 8 ボランティアについてはどのように提供しているか。

(回答) 家庭クラブや生徒会中心の活動となっている。中学時より継続的に取り組んでいる生徒もいる。

意見 9 SGH課題研究の成果が生徒にとってみると定着度が低いような結果になっている。しかし、その成果を検証するにはもう少し時間がかかると思う。大学生或いは社会人になった時にこのアンケートを取ったとするならばかなりの割合で肯定的になるであろう。今年度で指定は終了と聞いたが非常に良い取り組みであるので来年度以降も今までの取り組みを継承してぜひ取り組んでほしい。

意見 10 SGH課題研究の取り組みは、本校の生徒を成長させるのに大切な取り組みである。数多くの卒業生や保護者が社会の色々な場所で活躍している。先輩から後輩へ伝承していき今以上に活躍を期待したい。

【本校の自己評価について】

意見 11 超過勤務の職員の心身の状態はどうか。

(回答) 時間外勤務が多いことが理由で産業医の面談を行った職員が1名あった。産業医より色々とアドバイスをいただき、特に身体的に問題となるような所見はなかった。

意見 12 教育の変化と働き方改革。教員の仕事は、他業種とは違った苦勞がたくさんある。志を高く持ちその後大きく花開く生徒を育てるために指導していただいている。時間ばかりの規制は教育の質の低下にもつながりかねない。難しい改革ではあるが教師とし

ての仕事の本質を忘れることがないよう検討吟味してほしい。

意見 13 学校の閉門時間は以前に比べかなり早くなってきている。そのギャップがどこかに出ているのではないかと心配している。

意見 14 交通安全指導については、家庭における指導も啓発するとよい。

意見 15 働き方改革の一環として教員以外でもできる仕事を保護者やOBに依頼することも一つの方法である。教員にしかできない仕事と教員以外でもできる仕事を検討されるとよい。教員は生徒の出口指導が一つの大きな仕事ではある。

意見 16 「お金より休みがほしい」という若者が多くなっているような気がする。今後の事を考えると危機感を感じることもある。高校時代に受けた授業を思い浮かべると一斉授業形態での授業であり生徒同士がお互いの問題を相互の話し合いによって解決していくようなことはなかった。友達同士での話し合いを持つような場面を多くし、生徒自らが物事についていろいろと考えられるような人間に育ててほしい。

(回答) AL型の授業展開は各教科で実施してる。主体的と考えられような生徒の育成の一つとなればよい。

意見 17 OBや保護者の協力を経て時代の流れに合わせた支援の方法を考えていきたい。

学校 貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今後とも支援をお願いしたい。

6 会議のまとめ

第2回学校評議員会では、校則について、生徒及び保護者対象アンケート結果、本校の自己評価等の説明を行った。それぞれの議題ごとにご意見等をいただいた。

今年度は、初めて校則について学校評議員の方々に内容を確認していただき、時代と共に変化する社会の動きや生徒に合致したものであるかの検証していただいた。概ね良好ということであった。ただし、今後も社会の変化によっては対応していくべきであるというご意見をいただいた。また、教職員の働き方改革にも多くの意見をいただき今後の学校運営に役立てていきたい。

今回の貴重なご意見を真摯に受けとめて、次年度の教育活動に生かしていくとともに、今後も学校の教育活動について様々な機会を通してご意見をいただきながら、本校の校風を守りつつ、地域の信頼に応えることのできる魅力ある学校づくりを行っていきたい。